

R7年度 後期学校評価アンケートの結果と考察

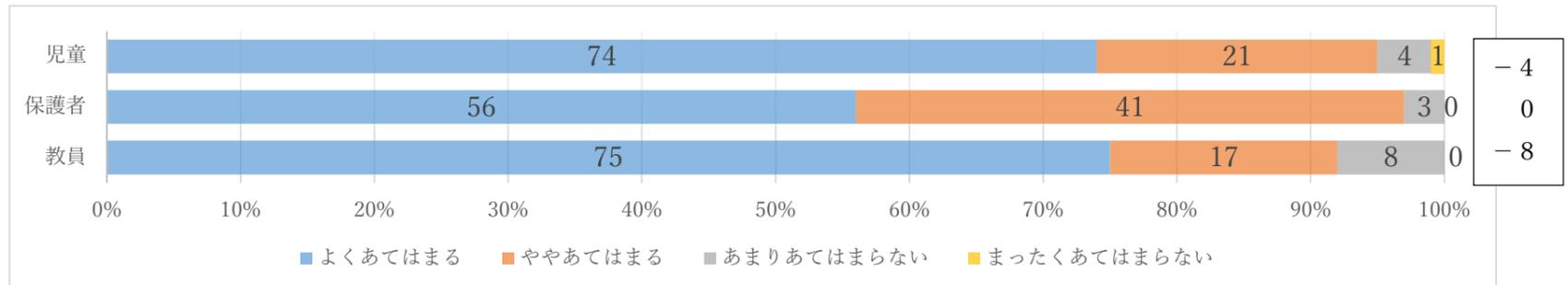
令和7年12月実施

よくあてはまる ややあてはまる あまりあてはまらない まったくあてはまらない

生きる力 ～つよく ただしく うるわしく～ The Last Year

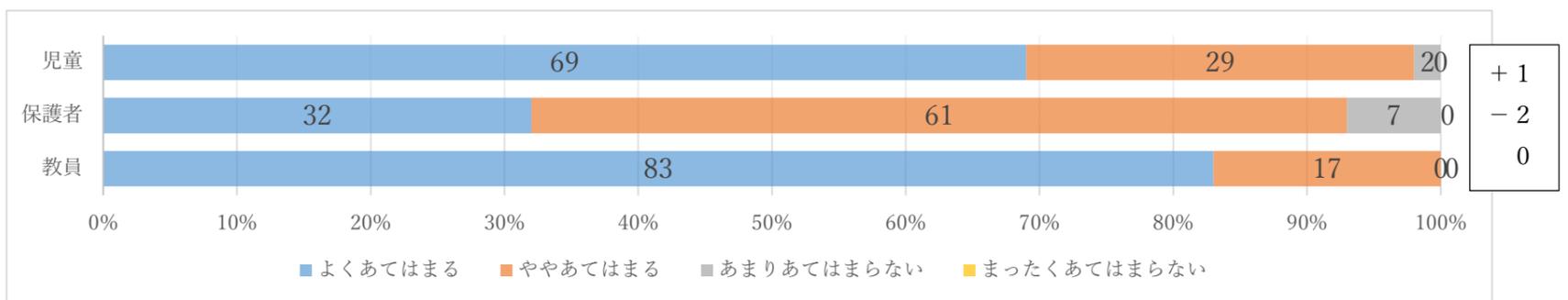
※ 右側四角囲みの数値は、前期肯定率との比較

- 1 健康や安全に気を付けた。(児童)
 学校は、児童の健康や安全のための教育に取り組んでいる。(保護者)
 児童の健康や安全のための教育に取り組んだ。(教員)



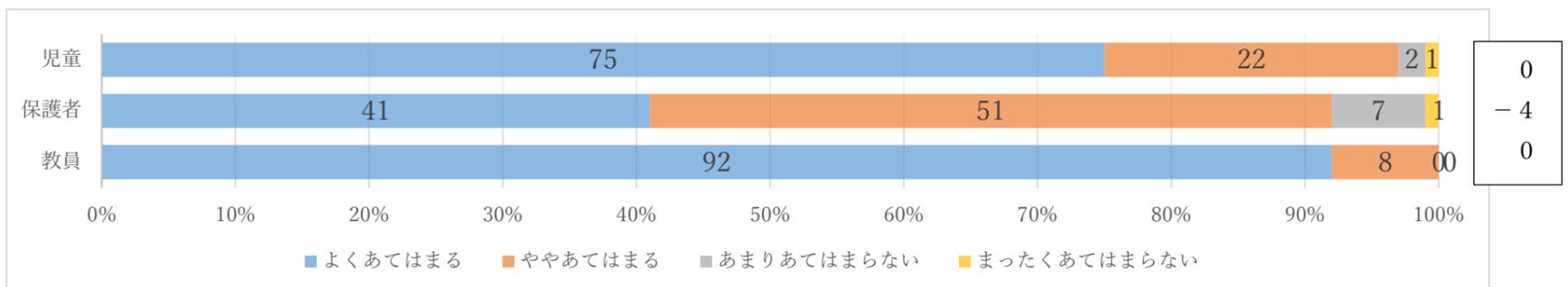
- ・前期に比べて教員・児童の肯定率が下がった。年度当初は意識していた安全面に対する意識が希薄になっていると思われる。再度、安全指導や安全な行動は日常的に行わなければいけないことを教員・児童ともに意識する。
- ・避難訓練において、児童の意識の高まりがみられた。

- 2 挨拶、規則正しい生活ができた。(児童)
 お子さんは、挨拶など基本的な生活習慣が身に付いている。(保護者)
 児童には、挨拶など基本的な生活習慣が身に付いている。(教員)



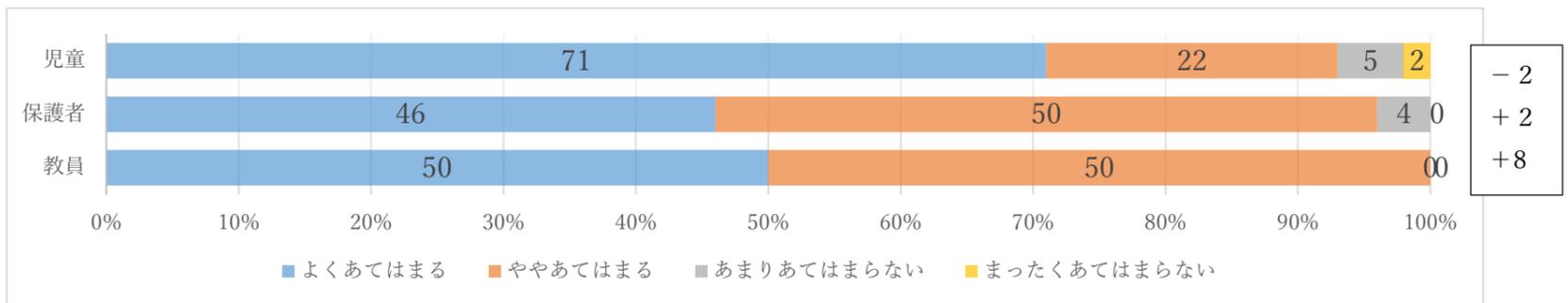
- ・挨拶に関する意識は確実に高まっている。今後、「挨拶をしたか」ではなく、「相手の目を見てできたか」「地域の人にもできたか」など、一歩踏み込んだ声掛けを行うことで、児童の挨拶を質の高いものに導きたい。
- ・学校内と家庭及び地域での児童の挨拶に差があるようだ。「生きる力」の定着には、学校と家庭・地域の連携が不可欠であるため、学校での好事例を校報等で発信したい。

- 3 クラスのみんなと協力した。(児童)
 学校は、望ましい集団づくりに取り組んでいる。(保護者)
 望ましい集団づくりに取り組んだ。(教員)



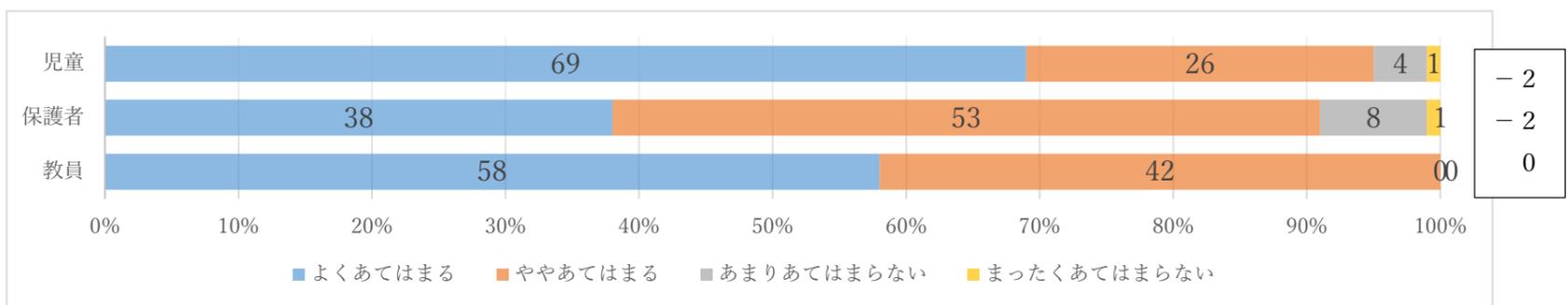
- ・保護者は学校の様子を参観日や行事等の姿だけでなく、日常的なトラブルの有無や、子供から聞くクラスの様子から判断する。保護者の肯定率の低下は日常的な人間関係の悩みや小さなトラブルに対する不安の表れだと思われる。
- ・「生きる力」をつけるためには多様な他者と協力する力が必要である。学級経営を基盤とした望ましい集団づくりに今後も力を入れていく必要がある。

4 学校の行事が楽しい。(児童)
 学校は、行事の工夫や改善に取り組んでいる。(保護者)
 行事の工夫や改善に取り組んだ。(教員)



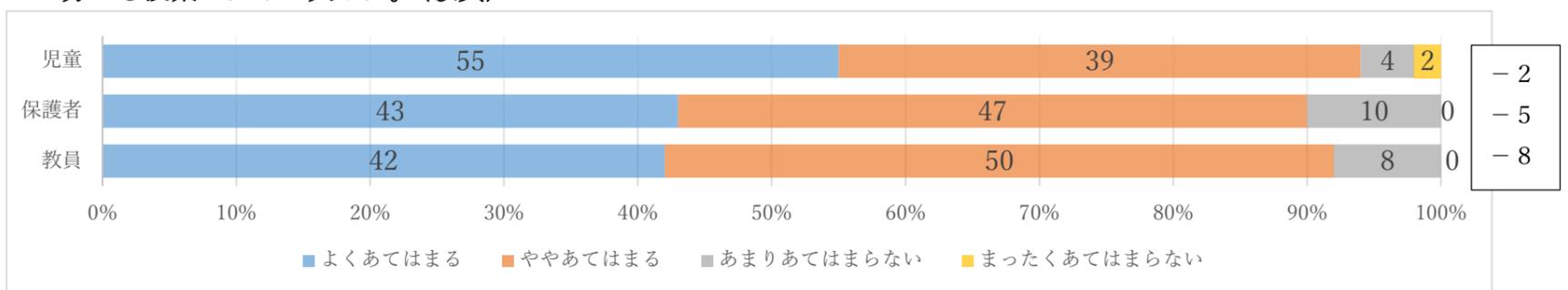
- ・ 行事の改善において、教員の意識が高まり保護者からも一定の評価を得ている。特に秋の遠足は工夫が凝らされており教育的意義も大きかった。
- ・ 児童の肯定率が微減したのは、児童に十分成就感を味わわせられなかった可能性を示唆しているのかもしれない。

5 先生たちは、自分をよくみてくれている。(児童)
 学校は、一人一人に合った支援や指導に取り組んでいる。(保護者)
 一人一人に合った支援や指導に取り組んだ。(教員)



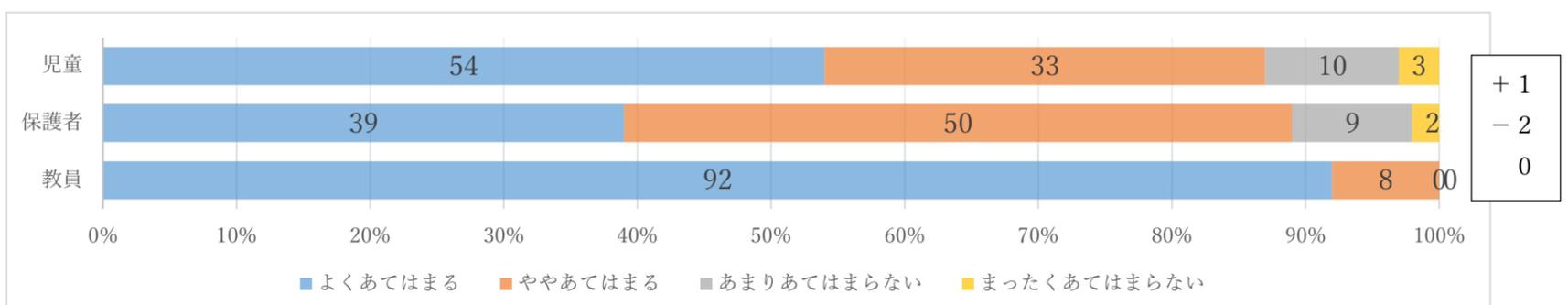
- ・ 3者とも肯定率が90%を超えている。
- ・ 一方、不安を感じている児童、保護者が一定数いる。教員は「勉強を教えている」「トラブルに対応している」ことで十分な支援しているが、児童や保護者が求めているのは情緒的な寄り添いや細かな変化への気付きの場合がある。

6 授業がわかる。(児童)
 学校は、分かる授業のため工夫している。(保護者)
 分かる授業のため工夫した。(教員)



- ・ 3者とも前期に比べて肯定率が下がっており、後期の学習内容の難化が主因と考えられる。
- ・ 教員の評価が-8と下がっているのは、裏を返せば「もっと授業の質を高めたい」という意識の表れである。
- ・ 授業時間に充てる時間を生み出せるように行事や事務処理の精選を行うとともに、個別最適な指導を探っていく必要がある。

7 神山小にいじめはない。(児童)
 学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。(保護者)
 いじめのない学校づくりに取り組んだ。(教員)



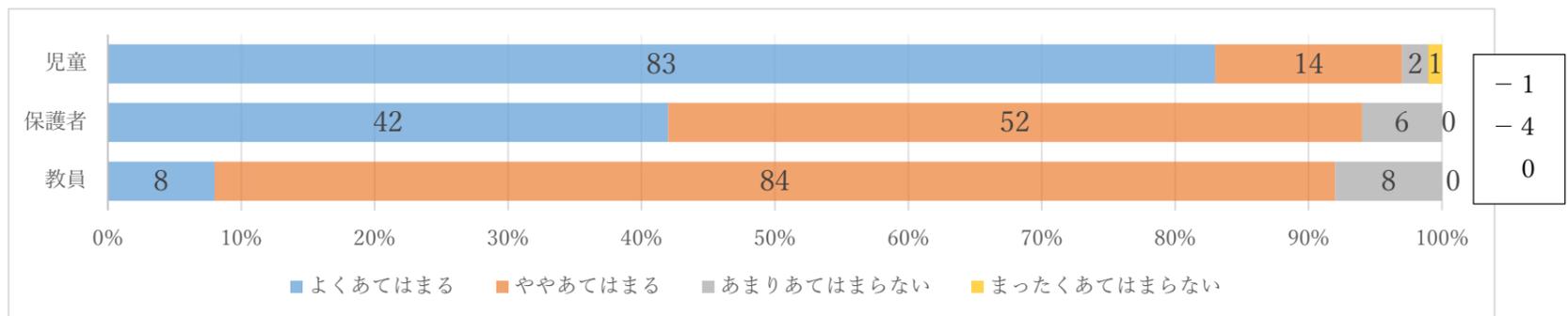
- ・ 前期に引き続き、保護者の中にいじめに関して不安を感じている方が一定数いる。

- ・前期に引き続き、「いじめが起きてから動く」のではなく「いじめは許されない」ということを学級指導や道徳などで折に触れて児童に伝える。
- ・機会を捉えた指導や人権集会などの取組により、児童の人権に関する意識は高まっている。この意識の高まりが行動となって現れるような指導が必要である。
- ・児童の様子でおかしいと感じることは、学校・家庭・地域で情報共有して対応にあたる。

8 友達を大切にしている。(児童)

お子さんは、他者を大切にできる心情・態度が育っている。(保護者)

児童は、他者を大切にできる心情・態度が育っている。(教員)

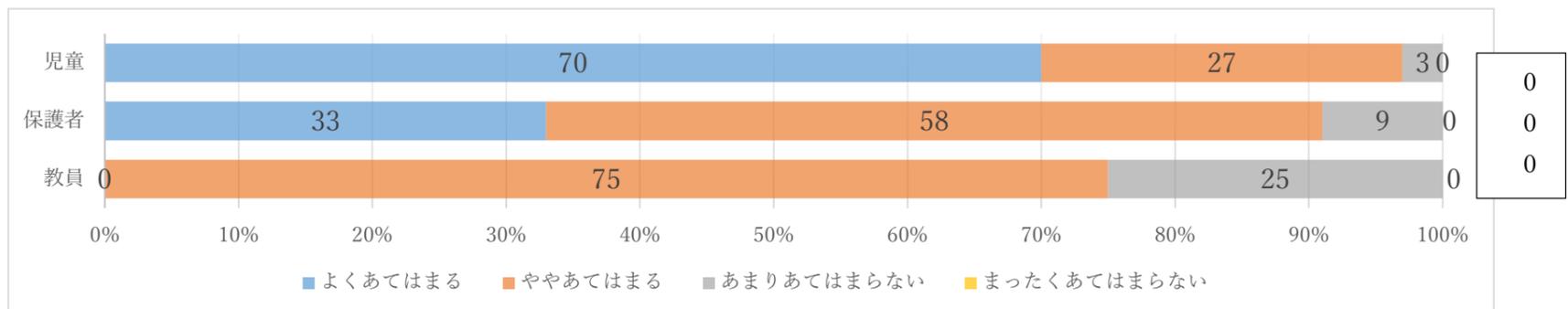


- ・他者を大切にできる心情の育成において、教員の評価は概ね維持されている。
- ・児童の肯定率が97%と非常に高い。今後も他者を思いやる言葉掛けについて、具体的場面を押さえながら指導を継続していく必要がある。
- ・学校外のオンライン上のやり取りで、友達を傷つけるような言動が見られる場合がある。保護者・学校ともにその把握、情報共有に努める必要がある。

9 きまりを守っている。(児童)

お子さんは、規範意識が育っている。(保護者)

児童は、規範意識が育っている。(教員)

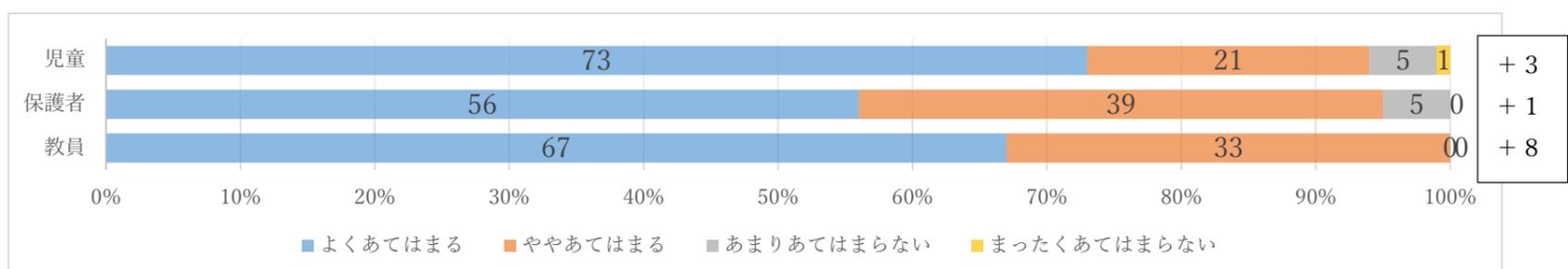


- ・前期同様、児童・保護者の肯定率が90%を超えているが、教員の肯定率が70%台となっている。
- ・教員は児童の規範意識が十分ではないと感じている。機会を捉えて規範意識の向上に努める必要がある。
- ・単に「決まっているから守る」のではなく、「なぜこの決まりがあるのか（他者の権利を守るため、安全のため）」を考えさせる必要がある。

10 学校は安心できる。(児童)

お子さんを、安心して学校に通わせている。(保護者)

安心できる職場である。(教員)



- ・本校教育活動の総括である「学校への安心感」については、児童・保護者・教員の全対象で肯定率が向上した。
- ・特に教員の肯定率の向上が、児童への温かな眼差しや行事の充実、ひいては保護者の安心感につながっている。
- ・一方、児童・保護者に「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している者が一定数いる。これらは登校渋り傾向や個別の人間関係の課題を抱えている可能性が高い。それぞれの立場から見た安心について引き続き考えていく必要がある。

<自由記述>

児童

- ・ぼくにだけ、あたりが強い人がいる。
- ・集団登校の時、話しながら横になっている人がいて前が見えにくくなっています。
- ・人のことを動物として例える人がいる。
- ・授業中しゃべる人がいて、注意をしても聞いてくれない。
- ・クラスで「死ね」や「殺す」と言う人がいる。友達に暴力をふるう人がいる。
- ・いじりをされて嫌な事があった。
- ・ちょっと、いじめがある。
- ・呼び捨てが気になる。

→4月当初に立ち返り、学級経営を基盤とした望ましい集団作りに注力し、誰もが安心して学べる教室づくりを推進する。

保護者

- ・毎日、重たいタブレットを持ち帰るが子供たちの体力を考えると、低学年のうちは紙に書く方が良いと思う。親が計画帳を見直すときもわざわざタブレットを準備するのも手間がかかる。週末や長期休暇の時だけでいいのでは？
- ・1年生の間はタブレットで計画帳を出すのと音読の録音はまだ早いような気がします
→タブレットを重要な学習ツールと考え、日常的に使っていく教育を推進しているところです。毎日、持ち帰る教科書等については国語と算数、あるいは国語のみにしており、負担を軽減しています。また、タブレットを持ち帰っておくことは不測の事態に備え、児童の学びの機会を確保することにもつながります。この考えのもと、学校統合後もタブレットの持ち帰りを継続します。川上・双岩小学校保護者にもその説明を行っているところです。
- ・子供が、何か賞などをとったときは親にわかるようにしてほしい。担任によって差がある。
→受賞については校報「かみやま」で紹介しています。
- ・月末に翌月の行事一覧を配布するのではなく、翌々月の行事一覧を提示してほしいです。連絡が遅いと思うことがあります。事前に教えてほしいです。
→行事予定の変更や修正をなるべく避けるために、次月の予定を10日前後にホームページに掲載しています。また、参観日等の主な行事については、4月に実施したPTA総会資料に掲載していますので、そちらをご覧ください。
- ・月一で行われる参観日の数をもう少し減らしてほしいです。いろんな授業を参観する場を提供いただくのはありがたいですが、参観日の不参加の選択の可能性は低く(子供が寂しい思いをするため)、毎月仕事を休むのも迷惑がかかるため。
→参観日や親子行事については、学校統合を控えていることもあって地域の実情を加味しながら見直しを行っているところです。
- ・送迎時の駐車スペースの確保
→学校及び学校の周辺の構造上、駐車スペースの確保はできません。
- ・授業中、問題行動を起こす児童への指導のために授業の中断がたびたび起きると聞いています。その為にテストの際に習っていない漢字などが出て困ると言っていました。
- ・連日、数名の児童による授業の進行を妨げるような行為があるようで、子供がストレスを感じているようです。
- ・子供たちにはいろいろな個性があり、静かな子・大きな声が出る子・慎重な子などさまざまだと思います。大きな返事ができなくとも、どの子も素晴らしさがあると思います。子供一人ひとりの個性に応じた対応をしていただけたら嬉しいです。
→問題行動等への対応は、その都度の家庭連絡や個人懇談等、直接話をするで行っています。今後もお気付きの点等あったら学校までご連絡ください。
- ・いつも朝早くから夜遅くまで子供のためにありがとうございます。おかげさまで毎日子供達は楽しく学校生活を送っているようです。今後ともよろしくお願ひします。
- ・学校内の環境や展示物など工夫されており、参観日で見ると楽しみます。ちょっとした気になる事もどの先生にも聞きやすいので助かっています。
- ・楽しく学校へ通っていて、家でも学校や友達のことを話してくれるようになりました。先生方のサポートのお陰です。心配しないで働けて感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・担任の先生に丁寧にみていただき、感謝しています。

- ・機を捉えた規範意識の徹底
- ・諸課題の未然防止や適切な対応の要は一人一人の児童理解
- ・SNSのトラブル → 大切なことは、SNSではなく面と向かって話すことを指導する。